



新型インフルエンザ対策

No.19

京都府丹後保健所HPバナー

新型インフルエンザ NEWS

～毎月12日(インフル)は、新型インフルエンザを考える日～

編集／発行 (京都府丹後広域振興局) 新型インフルエンザ対策ワーキング会議

丹後保健所 検索

<事務局>

京都府丹後保健所(丹後広域振興局健康福祉部) 保健室 感染症・難病担当
〒627-8570 京丹後市峰山町丹波 855
TEL.0772-62-4312 FAX.0772-62-4368
www.pref.kyoto.jp/tango/ho-tango

もくじ

- ・5～14歳は半数が感染か?.....①
- ・新型インフルエンザ入院患者情報.....①
- ・用語解説(合併症).....②
- ・流行時の注意点.....②

5～14歳は半数が感染か?

新型インフルエンザに感染した人の割合が、5～14歳では約半数に上る計算になることが分かりました。

国立感染症研究所が全国約5000ヶ所の医療機関を受診した患者数を基に全患者数を推計、11月22日までの累計患者数は推計1075万人で、その99%以上は新型インフルエンザとみられています。

患者の年齢別内訳は、0～4歳が95万人、5～9歳が285万人、10～14歳が309万人、15～19歳が168万人で、20歳未満が全体の約80%を占め、5～14歳が特に多い状況でした。

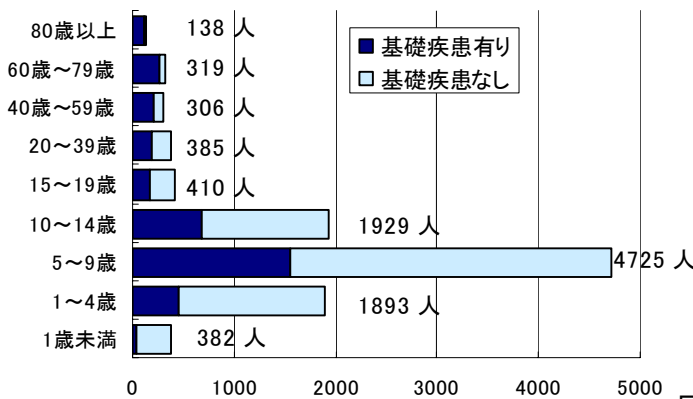
人口推計(総務省発表H21.6月時点)では、5～9歳の人口は572万人、10～14歳は597万人で、単純計算すると5～14歳では半数以上が感染し、医療機関を受診したことになります。

高齢者の感染が少ない状況ではありますが、感染者が少ない割に死亡者が多い特徴もあり、引き続き注意が必要です。



新型インフルエンザ入院患者情報

□ 入院患者の年齢構成(12/1 累計)10,487人 図1

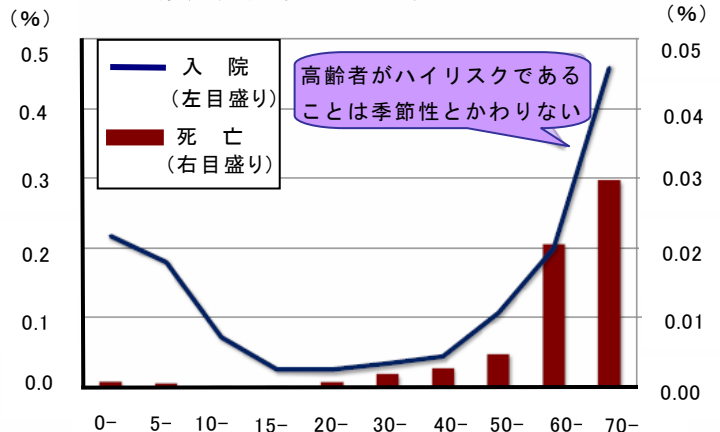


- 入院患者の年齢別では、1番多いのは5～9歳で約45%を占めている。患者数もその年代が多い。(図1)
- 入院患者の約33%(3497人/10487人)が基礎疾患を有する方である。(図1, 図2)
- 基礎疾患の内訳は慢性呼吸器疾患(喘息等)が多く、約60%を占めている。(図2)
- 患者数に対する入院や死亡率は、高齢者の方が高い傾向にある。(図3)

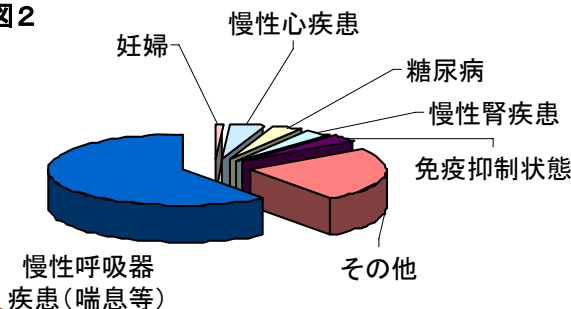
□ 男女別入院患者数 表1

	人数	割合
男	6708人	64%
女	3779人	36%
計	10487人	

□ 年齢階級別入院率及び死亡率 (推定受診者100人あたり) 図3



□ 基礎疾患を有する者(3,497人)の状況 図2



参照:12月1日までに入院した患者の累計数 厚生労働省「新型インフルエンザ患者の発生動向」

(用語解説) **合併症**

合併症(英語: complication)とは、「ある病気が原因となって起こる別の病気」または「手術や検査などの後、それらがもとになって起こることがある病気」の2つの意味を持つ医学用語です。

1つ目の意味は、原疾患(もともとある病気のこと)が前提となって生じる続発性の病態・病変・疾患で、例えば糖尿病患者は次第に腎症を併発するように、**原疾患そのものを原因として発症する病気や症状**を言います。

2つ目の意味は、腹部手術後に続発する腸閉塞のように、**原疾患に対する検査あるいは治療に伴ってある確率で不可避に生じる病気や症状**で、「検査の合併症」「術後合併症」と呼ばれています。

インフルエンザの合併症は、1つ目の意味で、右のようなものがあり、罹患した時の症状を注意してみることが必要です

出典: Wikipedia

インフルエンザで起こりやすい合併症

- 肺炎(細菌性・ウイルス性)
- 脱水
- 喘息発作の悪化
- 脳神経の症状
- 精神症状
- 心臓の筋肉の炎症(心筋炎)
- のどの奥の炎症(喉頭炎、仮性クレープ)

流行時の注意点

こどもが熱を出してもあわてないで!

新型インフルエンザは、免疫がないため、多くの人がかかりますが、季節性インフルエンザと同様に、発熱が3~5日間続いた後に自然に治ります。また、症状がでないまま治る(不顕性感染)こともあります。新型インフルエンザだといって不安にかられることはありませんが、次のような症状には注意が必要です。



注意しなければいけない症状

- ぼんやりしていて視線が合わない。呼びかけに応じない。眠ってばかりいる。
- 意味不明なことを言う。異常に興奮したりする。(すぐに正常に戻る場合は、発熱のためにおこる「熱せんもう」であわてることはないが、持続する場合は注意が必要)
- 手足を突っ張る、がくがくする、目が上にあがる。(けいれんの可能性)
- 息が苦しく呼吸が早い、ゼーゼーいう、肩で呼吸している、胸がへこみ、お腹を突き出す(シーソー呼吸)、肋骨が凹むような呼吸をしている(陥没呼吸)など異常な呼吸状態。
- 顔色が青白く、土気色である。唇が真っ白で、紫色をしている(チアノーゼ)。
- 声がかれて、犬のほえるような「ゴホゴホ」というような咳をし、息を吸うときに苦しそう。
- 食欲がなく、水分がとれず、半日以上おしっこが出ていない。
- 嘔吐や下痢が頻回にみられる。
- その他、熱の出方がいつもの時とは何か違うように感じた時。



受診のめやす

- 普段から「かかりつけ医」を持ちましょう。
- 発熱(38.0度以上)した場合、できるだけ診療所や病院の**診療時間内**に受診しましょう。時間外はスタッフ体制も十分でないことから、時間内での受診をおすすめします。
- 休日や診療時間外に発熱した場合は、**救急告知病院**を受診しましょう。
- 深夜に発熱した場合、注意しなければいけない症状がなければ、水分を十分に与え、頭部を冷やすなどして、安静にしておくことが大切です。深夜に受診することの方が、かえって子どもにとって身体の負担になります。
- 上のような症状があれば、連絡をした上で医療機関を受診するようにしましょう。

俺様は合併症も連れてくるぜ

子どもの発熱! あわてずによく様子みてね!

ソナウレ君



出典: 京都小児科医会

「子どもが熱を出してもあわてないで!」

新型インフルエンザNEWS No.20
(平成22年1月12日発行)

- ・トピックス
- ・新型インフルエンザ
- ・用語解説
- ・予防接種



バミック